

ステークホルダーエンゲージメント

基本的な考え方

Honda が社会から「存在を期待される企業」となるためには、Honda がどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜的確に伝えるとともに、多様なステークホルダーの Honda に対する要請や期待を把握・理解し、具体的な施策に落とし込み、その評価を受けるというコミュニケーション・サイクルを実践していく必要があります。

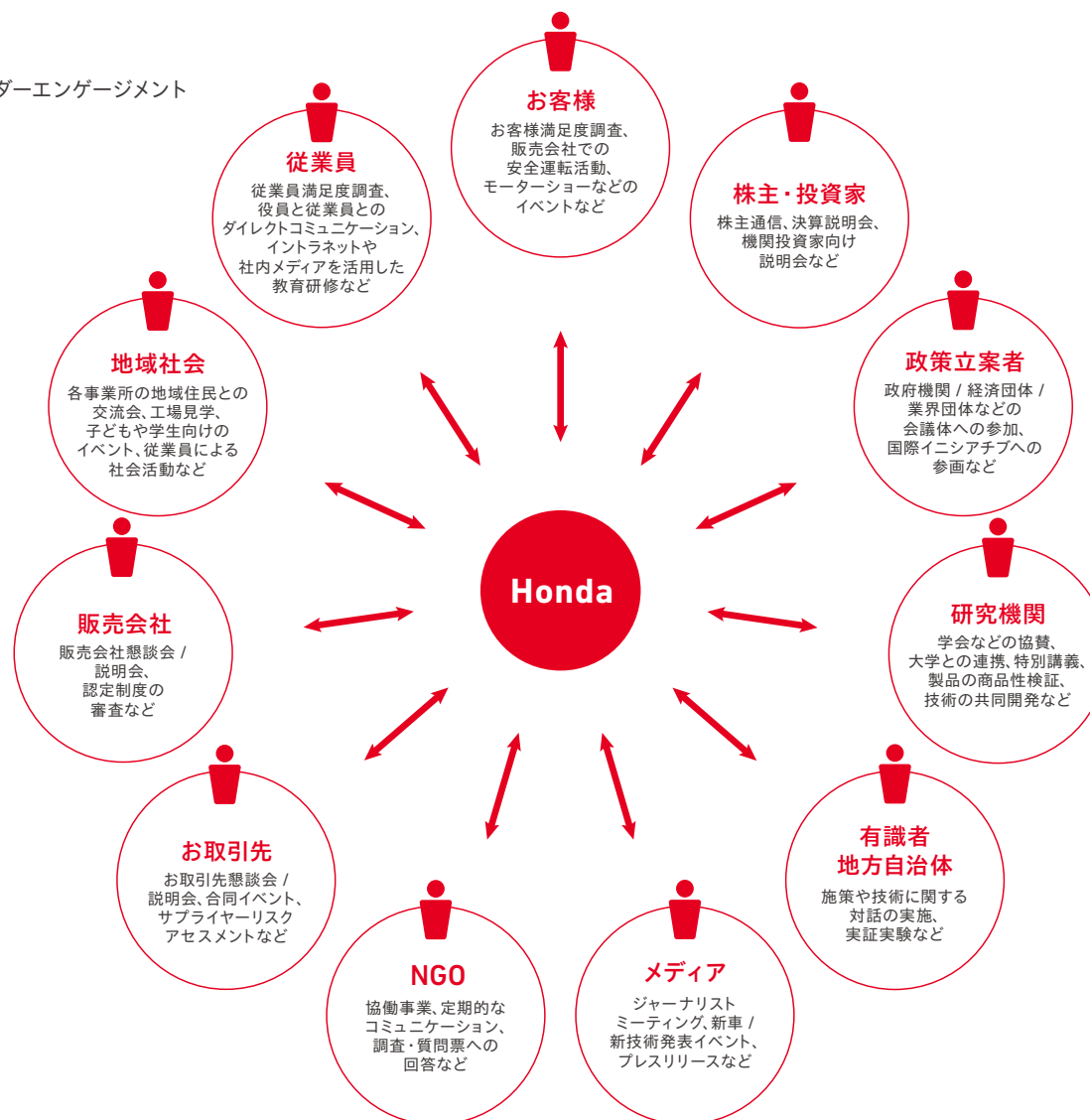
とりわけ近年は、事業の規模拡大やグローバル化に加え、IT の急速な普及によって、企業行動が社会に及ぼす、また社会が企業に及ぼす影響の大きさや範囲が広がっており、そのスピードも加速しているなか、「ステークホルダーとの対話」は、Honda の取り組みに対するより正しい理解につながるとともに、社会環境の変化やリスクを把握できる有益な手段でも考えています。

こうした認識のもと、Honda は、事業全般に携わっていただくステークホルダーのなかで、Honda の事業活動により影響を受ける、もしくはその行動が事業活動に影響を与える右図の主要なステークホルダーと社内各部門がグローバルでさまざまな機会を通じて対話を実施しています。

例えば、株主との対話では、従来の IR 活動に加え、主に ESG の取り組みを紹介する SR 活動(シェアホルダー・リレーション)活動を展開し、株主である機関投資家との意見交換、株主イベントや株主通信を通じた Honda の取り組みの発信を実施しています。

また、代表的な ESG 評価機関や NGO との対話から得られた意見を「マテリアリティマトリックス」(⇒ P.11)に反映させ、Honda が取り組むべき課題の特定に役立てています。

ステークホルダーエンゲージメント



ステークホルダーエンゲージメント

外部団体との協働

Honda は、グローバルなモビリティメーカーとしての責任を果たしていくために、政府をはじめ経済団体や業界団体との対話を推進するとともに、外部団体との協働を行っています。日本においては一般社団法人日本自動車工業会の副会長職や委員会委員長職、委員、公益社団法人自動車技術会の会長職、東京商工会議所の副会頭職を引き受けています。

また、International Motorcycle Manufacturers Association (IMMA) や Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles (OICA) といった二輪車、四輪車の国際団体においても、技術委員会などの議長を各業界団体の代表として務めています。さらに World Economic Forum (WEF) や World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) への加盟を通じて、サステナビリティに関するイニシアチブとも協力しています。

なお Honda の各地域における事業執行にあたっては、各地域が自立性を高め、迅速な意思決定を行うため、一定の範囲内で権限を委譲しています。政治献金を行う場合は、各国の法令に基づき、社内の必要な手続きを経て行っています。

外部評価

企業の持続可能性の指標「Dow Jones Sustainability Asia/Pacific Index」の構成銘柄に選定

Honda は社会的責任投資の代表的な指標である「Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)」において、「Automobiles」セクターでアジア・太平洋地域の上位 2 社に入り、「Dow Jones Sustainability Asia/Pacific Index」の構成銘柄に 2 年連続で選ばれました。

DJSI は、米国の S&P Dow Jones Indices 社とスイスの RobecoSAM 社によって開発された投資指標で、経済・環境・社会の 3 つの側面から世界の上場企業のサステナビリティを評価し、総合的に優れた企業を構成銘柄として選定しています。



RobecoSAM 社によるサステナビリティ評価にて「Bronze Class」に 2 年連続選定

Honda はスイス RobecoSAM 社によるサステナビリティ企業評価「Sustainability Award 2017」において、「Automobiles」セクターの「Bronze Class」に 2 年連続で選定されました。RobecoSAM 社は、経済・環境・社会の側面から、世界約 2,500 の企業のサステナビリティの評価を行い、毎年、各セクターの評価上位企業を「Gold Class」「Silver Class」「Bronze Class」として発表しています。



「CDP Japan 500 Climate Change Report 2016」において「A-」を獲得

2016 年 11 月、CDP は、世界の大手企業約 5,000 社を対象に実施した、各企業の地球温暖化対策や GHG 排出量削減への取り組みの調査結果を発表しました。

Honda は、そのなかの 1 カテゴリーである「CDP Japan 500 Climate Change Report 2016」にて、環境マネジメントにおいてベストプラクティスと認められる活動を行っているとして評価され、リーダーシップレベルのスコアである「A-」を獲得しました。

CDP は、企業や都市の重要な環境情報を測定、開示、管理し、共有するためのグローバルなシステムを提供する国際的な非営利団体であり、企業の環境問題への取り組みを「情報開示」「認識」「マネジメント」「リーダーシップ」の 4 段階で評価しています。

ステークホルダーエンゲージメント

T O P I C S

米国カリフォルニア州で Honda Marine Science Foundation を設立

Honda は海洋の生態系の回復と、海洋と海岸の環境に人間の活動や気候変動が及ぼす影響への対応を目的とした新たな取り組みとして、Honda Marine Science Foundation を設立しました。同財団はより良い海岸地帯の環境を未来の世代に引き継ぐための科学的なプログラムへの支援を行っていきます。基金の役員会は Honda からの代表者に加えて、海洋科学分野の専門家であるアメリカ海洋大気庁、サンタモニカを拠点に環境保護活動を行う NPO Heal the Bay、カリフォルニア大学サンタバーバラ校プレン・スクール環境科学マネジメント学部、そしてカリフォルニア州ロングビーチの公共水族館 Aquarium of the Pacific からの代表者で構成されています。最初の取り組みは「南カリフォルニア天然牡蠣の回復プロジェクト」であり、天然牡蠣を回復させることが海岸線の安定化にどのような良い効果があるのかを、一般の人たちにもわかるように教える先駆的な研究も含まれています。

Honda はこの財団が効果的に各セクターの協業を促し、海洋生態系の保全に貢献することを期待しています。



Honda Marine Science Foundationのロゴ



設立式の様子



プロジェクトに参加した学生たち

慈善団体の支援を目的に「NSX」をオークションに出品

Honda は慈善団体の支援を目的に、約 10 年ぶりに復活したスーパースポーツカー NSX の量産 1 号車をオークションに出品しました。米国アリゾナ州スコッツデールで開催された世界最大級の名車オークション、Barrett Jackson Auction において車台番号「001」が刻まれた NSX 量産 1 号車を歴代最高落札価格となる 120 万ドルで落札したのは、Honda とアキュラのディーラーであり、NASCAR の名門チームの Hendrick Motorsports を率いる Rick Hendrick 氏です。収益の全額は子どもの支援を目的とする 2 つの慈善団体、小児脳腫瘍財団と、社会に馴染みにくい子どもたちや、神経行動学的な疾患のある子どもたちをサポートするジョージア州の NPO、Camp Southern Ground に寄付されました。2017 年 2 月にはもう 1 台の NSX も 275,000 ドルで落札され、その全額は Grammy Foundation が運営する、行政や医療制度からの十分なサービスを受けることができないミュージシャンをサポートする基金、MusiCares に寄付されました。



オークション会場の様子



子どもたちの目の前で歴代最高落札価格到達

オハイオ州におけるスマート・シティ・チャレンジと 33 号線のスマート・モビリティ・コリドー・プロジェクト

2016 年 6 月、米国オハイオ州コロンバス市は、米国運輸省が開催した「スマート・シティ・チャレンジ」に応募した全米 78 都市の中から優勝都市に選ばれました。これは、都市のスマート化を促進し、すべての住人により簡単な移動と機会へのアクセスを可能にする環境配慮型の社会実験計画を推進するものです。

コロンバス市の取り組みは、「事故に遭わない社会」の実現をめざす Honda と方向を同じくしています。オハイオ州に製造拠点と研究所を置く Honda は最先端の技術を駆使し、モビリティ社会の未来の指針となるこれらのプロジェクトを全面的に支援していきます。その一環として

Honda はコロンバス市にプラグインハイブリッド車、電気自動車を提供する予定です。

さらに、オハイオ州を走る国道 33 号線で、Honda の「V2X」（「クルマ」と「クルマ、人、道路通信システムなど」をつなぐ通信ネットワーク技術）について、実際の道路環境下で実証実験を行うスマート・モビリティ・コリドー・プロジェクトを進めています。